

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2015年度事業報告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2015年度の経過

2015年度の本協会の事業として、第30回リハ工学カンファレンスを11月13日から15日まで沖縄県総合福祉センターにおいて開催し、264名の参加者があり、119演題の発表、公開講座、各SIGによる基礎セミナーをしました。福祉機器コンテストは7月に1次選考会、9月に2次選考会を開催し、機器部門3件、学生部門3件の受賞作を選考しました。受賞作は10月に東京ビッグサイトで開催された国際福祉機器展(H.C.R.)において本協会のブースに展示し、同会場で表彰式を行いました。受賞作は西日本福祉機器展(北九州市)、リハ工学カンファレンス(那覇市)において展示し、多くの関係者の注目を集めました。協会誌は30号3巻から31号2巻まで4回発行し、31号1巻では福祉機器コンテストの報告書を合冊しました。

分科会・専門委員会関連事業では、本協会の法人化にともなう財務面から10SIGを協会内の組織にすることが難しいため、まず4SIGについて法人内SIGに移行する手続きを進めました。5月7日と8日には福島市で第4回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会を開催し、33名の参加者を集めました。広報活動としてはH.C.R.2015、バリアフリー2016、西日本国際福祉機器展などにおいてブースを設け、本協会の活動をPRすると共に、主催者の主催するイベントに協力いたしました。

国際関連事業では会長が、11月5日と6日に韓国リハビリテーション工学協会(RESKO)が主催する学術大会に参加し、RESKOの李会長、台湾リハビリテーション工学協会(TREATS)の陳会長と本協会の3団体による協定(MOA)を調印しました。3月25日から27日に台北で開催されたTREATSの学術大会に会長が招待され、日本の支援技術に関する講演をしました。

以上のように今年度も多方面にわたる事業を展開して参りましたが、財政面では依然として厳しい状況が続いています。従来からの事業は縮小せずに、出費を抑える努力を続けてきた結果、大きな赤字を出さずにすみました。今後も本協会を継続および発展させるため、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

会長 繁成 剛

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2015年7月1日 正会員 806名(うち社員(代議員) 95名)、学生会員 13名、
賛助会員数 22社(64口)

2016年6月30日 正会員 818名(うち社員(代議員) 95名)、学生会員 28名、
賛助会員数 22社(64口)

2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2015年度の活動を報告する。

2-1. リハ工学カンファレンス関連(担当理事: 剣持悟・宮野秀樹)

1) 第30回リハ工学カンファレンス in おきなわの開催

テーマを「技のちゃんぷる〜 御万人(うまんちゅ)を支えるテクノロジー」と題して2015

年（平成 27 年）11 月 13 日（金）～15 日（日）沖縄県総合福祉センター（沖縄県那覇市）において瀧下修一氏（沖縄リハビリテーション福祉学院 学院長）を大会長、金城知子氏（沖縄リハビリテーション福祉学院 作業療法学科長）を実行委員長として、開催した。担当理事も実行委員会（10/14、10/26、11/9）に参加した。市民公開講座およびカンファレンス広報を沖縄県那覇市を中心に行い（10/19～21）、市民公開講座も盛況であった。情報保障では市民公開講座で手話通訳を、交通アクセスはゆいレール最寄り駅から会場間をバリアフリーバスで移送するなど、障害ある参加者に配慮した環境が用意できた。会員・協賛団体、障害当事者、学生、リハ工学技術者及び研究者、医療専門職、社会福祉・教育・企業関係者が参加した。

当カンファレンスへの参加者数は 275 名（次ページ表参照；うち、有料参加者 262 名、海外からの参加者 4 名）であった。

参加種別	協会員 協賛団体	非協会員	学生	当事者 初回発表者	合計
第 30 回（沖縄）	187 名	58 名	17 名	2 名	264 名

・研究発表等

- ・演題数：119 題（うち、学生セッション 5 題、国際セッション 3 題）
- ・口頭発表：23 セッション、99 演題（うち、国際セッション 3 演題）
- ・インタラクティブセッション：20 演題（うち、学生セッション 5 演題）
- ・イブニングセッション（1 日目～2 日目）
- ・交流セッション（3 日目）

・公開講座

「水族館における獣医師の役割（イルカの QOL 改善を中心に）」

講演者：植田 啓一氏（沖縄美ら島財団 獣医師）

・企業展示

リハビリテーション工学関連企業 9 社による開発商品展示及び研究開発の紹介を行った。

・交流会

カンファレンス 2 日目、イブニングセッション終了後に交流会が開催された。関係者の挨拶の後、多くの参加者同士の交流が行われた。会場では、エイサーの演舞や SIG 紹介などが行われ、盛況であった。

・福祉機器コンテスト 2015

最終選考会ならびに一次選考通過作品の展示が行われた。

2) 第 31 回リハ工学カンファレンス in こうちの開催に向けての準備

- ・実行委員会が立ち上がり、バリアフリー展で広報を展開した。
- ・実行委員会が開催され以下のことが決定した。

開催日：平成 28 年 8 月 26 日（金）～28 日（日）

会場：高知県立ふくし交流プラザ 〒780 - 8567 高知県高知市朝倉戊 375-1

大会長：白石研二氏（高知県社会福祉協議会 事務局次長）

実行委員長：下元佳子氏（生き生きサポートセンターうえるば高知 代表）

主管：第 31 回リハ工学カンファレンス in こうち実行委員会

3) 第 32 回リハ工学カンファレンス開催準備

- ・2017 年開催地に神戸市を候補として、実行委員会の中心となってもらう関西支部に依頼し、8/29 の関西支部役員会において了承された。
- ・実行委員会が立ち上がり、i-CREATE2017 との同時開催を実現すべく調整を続けている。

2-2. 福祉機器コンテスト関連 (担当理事：山形茂生)

1) 福祉機器コンテスト 2015

- ・第一次選考会 2015 年 7 月 11 日 (土) 応募作品の書類・ビデオ審査
於：横浜市総合リハビリテーションセンター
7 月 31 日 (金) 学生部門 応募書類による投票選考
- ・第二次選考会 2015 年 9 月 6 日 (日) 機器開発部門：プレゼンテーション審査、
学生部門：書類・ビデオ審査 於：南生協病院 (名古屋市緑区)
- ・発表、表彰：第 42 回国際福祉機器展 H.C.R.2015 会場内 10 月 9 日 (金)
- ・展示、広報
第 42 回国際福祉機器展 (H.C.R.2015、東京) 10 月 7 日 (水)～9 日 (金) (表彰式/受賞作品の実物展示)
第 17 回西日本国際福祉機器展 (P.P.C.2015、北九州市) 10 月 29 日 (木)～31 日 (土) (受賞作品の実物展示)
第 30 回リハ工学カンファレンス (沖縄) 11 月 13 日 (金)～15 日 (日) (受賞作品の実物展示)
福祉機器コンテスト結果報告書を作成し、関係団体に配布をした。
- ・リハビリテーション・エンジニアリング Vol31.No.1 に結果報告書と協賛企業報告を掲載した。
- ・2016 年度コンテスト事務局となる車座との業務委託契約を結んだ。

2) 福祉機器コンテスト 2016

- ・特別協賛：フランスベッド株式会社
- ・協 賛：株式会社有菌製作所、株式会社今仙技術研究所、川村義肢株式会社、
株式会社ケープ、日陶科学株式会社、株式会社ミクニライフ&オート、
株式会社モリトー
- ・後 援：厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会
- ・福祉機器コンテスト 2016 選考委員会の設置 (2016 年 4 月 1 日～)
- ・募集対象：機器開発部門、学生部門
- ・広報開始・応募要綱配布：4 月中旬
- ・募集期間：機器開発部門、学生部門 5 月 6 日 (金)～
- ・展示、広報
バリアフリー2016 (大阪) 4 月 21 日 (木)～23 日 (土) 最優秀作品の展示とコンテストの広報を行った。
ウェルフェア 2016 (名古屋) 6 月 2 日 (木)～4 日 (土) コンテストの広報を行った。

2-3. 協会誌関連 (担当理事：石濱裕規)

- 1) 協会誌発刊：以下の 4 号 (各 1000 部印刷) を発刊した。

- ・ vol.30 No.3 2015/8 特集「転ばぬ先のちえ」
- ・ vol.30 No.4 2015/11 特集「未来の『パラリンピック』-Rio to Tokyo / 2016 ~ 2020-」
- ・ vol.31 No.1 2016/2 特集「私たちのいきる道—障がいを超えて—」
- ・ vol.31 No.2 2016/5 特集「Festina Lente! ゆっくり急げ —急性期にしかできない支援—」

2) 編集委員会の開催

協会誌発行にあわせ4回開催した他、随時、メーリングリストにて編集状況の報告相談等を行った。

3) 投稿論文（査読依頼）

2015年度は、投稿1件（研究論文1件）あった。また、2015年度に掲載された論文数は、Vol.30 No.4に1件（研究報告1件）であった。

4) その他

- ・ 新規編集委員を募り、決定した。
- ・ 協会誌電子化の範囲と対象等につき、編集委員へのアンケートに基づき理事間で協議を進めた。

2-4. 分科会・専門委員会（担当理事：岩崎満男）

1) 支部設置方針の見直し並びに規定整備

2015年度は、支部設置方針を見直して、設置申請方式から地域区割り方式に変更し、会員はいずれかの地域の支部に所属し、各地域でのリハ工学に関わる人的ネットワークを構築するために、区割りの決定と規定整備を行った。

2) SIG との協力関係及び活動支援

2015年度は、法人内SIGのロールモデルとして、協会の会員率が高く、すぐにでも移行可能な4SIGについて、試行的に法人内SIGとして活動し、メリット、課題等の洗い出しを行った。それぞれのSIGで、会計処理等の整備を進めた。また、さまざまな運営規模および運営方法である法人外SIGの活動と協働するために、基本協力関係の覚書を締結に向けた調整を行った。

なお、各SIGの2015年度活動報告については、次ページに示す。

3) 専門委員会

- ・ 国際連携委員会の設置を行った。
- ・ 災害対策委員会の設置を行った。

2015年度活動報告

※会員数(協会員数)は2015年7月現在。

SIG姿勢保持	http://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数：210名 (35名)
代表者：繁成(剛薬大学) □ 事務局長：児玉真一(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・SIG基礎セミナー開催：2015年11月15日 沖縄総合福祉センター ・復興支援講習会参加：2016年5月7日 福島テルサ ・役員会の開催：2015年12月26日 横浜市総合リハビリテーションセンター ・書籍(小児から高齢者までの姿勢保持・第2版)や資料集PDF版の販売		
車いすSIG	http://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数：139名 (72名)
代表者：松尾清美(佐賀大学) □ 事務局長：深野栄子 ・講習会開催：2015年10月17日・18日 神奈川県総合リハビリテーションセンター(厚木市) ・講習会開催：2016年1月23日・24日 川村義肢株式会社 本社(大東市) ・WEBサイト運営、テキスト発行(年2回)、分科会(BOG)活動、東日本大震災復興支援、協会事業への協力 他		
自助具SIG		会員数：9名 (9名)
代表者：岡田英志(ヒューマン) 事務局長：岡田英志(ヒューマン) ・法人内SIGへの移行準備 ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナー 講師派遣		
乗り物SIG	http://ameblo.jp/sunrisejp007/	会員数：5名 (5名)
代表者：岩崎満男((有)岩崎) 事務局長：松尾清美(佐賀大学) □ ・法人内SIGへの移行準備 ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナー 講師派遣 ・第4回東日本大震災復興支援講習会in福島 への講師派遣		
SIG褥上防止装置□	http://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数：20名 (20名)
代表者：新妻淳子(国立リハセンター研究所) □ 事務局長：河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター) ・法人内SIGへの移行準備、選挙、運営方法変更に伴う規約改正 ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナー 講師派遣 ・ISO16840対応 ・第4回東日本大震災復興支援講習会(福島) への講師派遣		
コミュニケーションSIG□□	http://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数：67名 (20名)
代表者：渡辺崇史(日本福祉大学) 事務局長：上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・WEBサイト運営 ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナー 講師派遣 ・第4回東日本大震災復興支援講習会in福島 への講師派遣		
SIG住いづくり□	http://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数：107名 (60名)
代表者：橋本美芽(首都大学東京) 事務局長：鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナーへの講師派遣 ・東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会への講師派遣		
特別支援教育SIG□		会員数：5名 (5名)
代表者：松田靖史(川村義肢株式会社) 事務局長：高原光恵(鳴門教育大学) ・次年度講習会の準備 ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナー 講師派遣 ・東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会への協力と講師派遣		
移乗機器SIG	http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfere/index.html	会員数：125名 (22名)
代表者：古田恒輔(神戸学院大学) 事務局長：青木久美子(宇部記念病院訪問リハビリテーション) ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ SIG基礎セミナー 講師派遣 ・第4回東日本大震災復興支援講習会in福島 への講師派遣		
義肢装具SIG	http://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数：159名 (47名)
代表者：水澤二郎□(般財団法人啓成院□ 萩高等職業技術専門学校) 電 事務局長：砂野義信 ・講習会開催：2015年9月5日□義装具SIG第1回講習会□ 東機大学□ 兼キャンパス(東京都) ・第30回リハビリ工学カンファレンスinおきなわ>SIG基礎セミナー 講師派遣 ・WEBサイト運営		

2-5. 企画推進事業(企画担当理事：中村俊哉/事業統括理事：金井謙介)

協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等の開催を行った。

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会へブースを設定し、広報活動を実施した。

- ・第14回高知福祉機器展(2015年7月3日(金)~5日(日) 於：高知県立ふくし交流プラザ)

- ・第42回国際福祉機器展 (H.C.R.2015) (2015年10月7日(水)~10月9日(金) 於:東京ビッグサイト(東京))にてブース出展を行った。
- ・第17回西日本国際福祉機器展 (P.P.C.2015) (2015年10月29日(木)~31日(土) 於:西日本総合展示場新館):九州・沖縄・山口支部の協力の上実施。
- ・バリアフリー2016 (2016年4月21日(木)~23日(土) 於:インテックス大阪(大阪))
- ・第12回新潟福祉機器展 (2016年5月14日(土)~15日(日) 於:新潟市産業振興センター)
- ・第15回高知福祉機器展 (2016年6月24日(金)~26日(日) 於:高知県立ふくし交流プラザ)

2) セミナー開催

以下のセミナー/ワークショップを開催した。

- ・第42回国際福祉機器展 (H.C.R.2015) (東京):「床ずれ~ひとりで悩みを抱え込まないで!」事例報告:小宮山優氏、麩澤孝氏。アドバイザー:松尾清美氏(10月7日(水))
- ・第42回国際福祉機器展 (H.C.R.2015) (東京):特別企画「子どもの広場」において車いすトレーニングイベント「子ども広場でひろげよう」(2015年10月8日(木))
車いす SIG の村田和之氏(神奈川県総合リハビリテーションセンター)が参加者を模し、車いすインストラクターの岡野善記氏(日本チェアスキー協会理事)、丸山靖氏(日本チェアスキー協会会長)により実施、見学者が入れ替わりながらも常時20~30人程度あった。
- ・第17回西日本国際福祉機器展 (P.P.C.2015) (北九州)において、九州・沖縄・山口支部の協力を得て、連日複数回のセミナー(2015年10月29日(木)~31日(土))を企画・開催
- ・バリアフリー2016 (大阪):「いっしょに考えようや!~24時間の生活と褥そう~」講師:宮野秀樹氏・下元佳子氏他(2016年4月22日(金))

3) 第4回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 福島開催

- ・2016年5月7日(土)~8日(日) 福島テルサにて第4回復興支援講習会 in 福島を開催した。協力 SIG は、コミュニケーション SIG、SIG 姿勢保持、車いす SIG、特別支援教育 SIG、SIG 住まいづくり、移乗機器 SIG、乗り物 SIG、SIG 褥そう防止装置であり、各 SIG より講師を派遣していただき実施した。参加者33人であった。

4) その他

- ・全国頸髄損傷者連絡会との第5回合同シンポジウム『『生活のなかでの褥瘡』その向き合い方』(2016年5月22日(日) 於:練馬区立・産業プラザココネリホール(東京))を開催し、96名の参加者を得た。
- ・次年度開催予定の30周年記念事業(2016年8月27日(高知市))へ向けた企画・調整を行った。
- ・空港における補助犬受け入れ&車椅子取扱いセミナー(主催:日本身体障害者補助犬学会・公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 他)への開催協力を行った。
本年度は、利用者の多い地方空港である、那覇空港(11月16日:参加29名)、新千歳空港(5月27日:参加58名)で開催し、航空事業者、空港職員および空港に関係する交通事業を対象を広げ実施した。

2-6. 国際関連の事業(担当理事:畠中規)

- ・11月の RESKO カンファレンスにて RESKO、TREATS との MOA を締結調印し、それに基

づいて各国代表をリハ工学カンファレンスに招待し、TREATS 代表と事務局長が参加され、国際セッションでのスピーチをいただいた。また、3月のTREATSカンファレンスに繁成会長が招待され、講演を行った。

- ・8月にCREATE Asia（アジアリハ工学連携会議）に正式に加盟し、i-CREATE2015カンファレンスに相良前副代表、井村前監事が参加された。i-CREATE2017はリハ工学カンファレンスと併催の予定で、準備作業に入った。
- ・RESNAが主導で進めている、世界規模の国際連携の新たな枠組み作りである、支援技術専門家組織連合（Alliance of Assistive Technology Professional Organizations：仮称）の素案を検討し、RESNA、AAATE、ARATA、RESKO、TREATSとともに、中心となって検討を行う中央委員会（Steering Committee）のメンバーとなった。
- ・国際連携推進委員会を立ち上げ、理事会とともに諸外国との国際連携を推進するため、経験豊かな相良前副代表、井上前監事、井村前監事の3名に委員をお願いし、上記の諸課題を相談し、アドバイスをいただきながら取り組むことができた。
- ・協会誌および協会ホームページに国際関連学会のスケジュールを掲載し、井村委員より協会の国際関連の取り組みについて協会誌に報告記事を掲載した。

3. 総務

3-1. 規則・選挙（担当理事：水澤二郎）

各種規則等の規定状況について、その内容を精査し、運用上の問題点や改定の必要性の有無を確認した。

3-2. 財務（担当理事：吉田泰三）

財務・財務管理体制について再検討した。従来は、公益法人化を目指しており、それに沿った会計システムを採用していた。しかし、財務状況を鑑み、公益法人化する営みを現在、中断している。公益法人化を目指した会計システムは、複雑、かつ膨大な会計処理作業があることから、中断に伴い、平易で、かつ作業量の少ない会計システムへの移行を行った。また、公認会計士との再契約を改めて行い、会計のより明確、かつ専門的な会計処理を実現した。また、会計年度をまたがるカンファレンス並びにコンテスト事業の会計処理方法についても、公認会計士のアドバイスをもとに、確定し、社員並びに関係機関、関係者に理解しやすい会計処理の方法を確立した。合わせて、通常の決算処理ならびに予算作成を遅滞なく行った。

3-3. 総会・理事会等会議開催（担当理事：高原光恵）

1) 2015年度定時社員総会の開催

- ・日時：2015年8月29日 14:00～15:00
- ・場所：グランフロント大阪（神戸芸術工科大学サテライトキャンパス）

2) 2015年度第1回（通算第30回）～第8回（通算第37回）理事会の開催

- ・2015年7月19日、8月29日、10月4日、12月13日、2016年3月20日、5月7日、6月19日に開催した。
- ・この他、電磁的手段（メール）による第2回（通算第31回）理事会を開催した（8月10日～16日）。

3-4. 広報・渉外（担当理事：杉本昌子）

- ・新リーフレットの運用を H.C.R.2015 から開始した。
- ・英語版リーフレットの暫定版を作成し、簡易印刷により必要部数を都度印刷、配布することとした。
- ・メールニュースの配信を行った（13 件／2016.5 現在）。
- ・情報発信ツールとして協会公式の Facebook ページを立ち上げ運用を開始した。
- ・H.C.R.2015 子ども広場において『子ども広場で広げよう!!』車椅子トレーニングイベントの司会進行を行った。
- ・バリアフリー2016 ワークショップにおいて『いっしょに考えようや！～24 時間の生活と褥そう～』を企画し、ファシリテーターとして参加した。

4. 事務局（事務局統括理事：沖川悦三）

1) 事務局運営

法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進めた。

2) ホームページの運営管理

会員サービスの一環とし、今まで以上のホームページ掲載内容の充実を図り、迅速に情報を掲載した。

3) メールニュースの配信

メールニュース配信は月 1 回以上を原則とし 24 通配信し、会員に情報提供を行った。

5. 後援・協賛事業（主催団体と内容）

2015 年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	協力	高知福祉機器展実行委員会・生き生きサポートセンターうえるば高知・社会福祉法人高知県社会福祉協議会	2015/7/3～5	第14回高知福祉機器展 バリアフリーフェスティバル
2	後援	福祉用具プランナー研究ネットワーク	2015/7/5	福祉用具プランナー研究ネットワーク第一回研究大会
3	協賛	バイオメカニズム学会	2015/7/24～26	第24回バイオメカニズム・シンポジウム
4	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2015/7/24～25	ヨコハマ・ヒューマン&テクノラント2015
5	後援	広島国際大学	2015/7/25～26	2015年度広島国際大学健康フェア
6	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2015/9/1～4	ヒューマンインタフェースシンポジウム2015
7	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2015/9/2～4	ライフエンジニアリング部門シンポジウム2015 (LE2015)
8	後援	NPO法人ケアリフォームシステム研究会	2015/9/12	ケアリフォームシステム研究会全国大会in大阪
9	後援	一般社団法人ナンフェス	2015/9/21	ウォーク&ランフェスタ2015

10	後援	熊本高等専門学校地域イノベーションセンター	2015/9/26～27	Japan ATフォーラム2015
11	後援	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2015/10～ 2016/4	第3回ウェルフェアデザインコンテスト
12	協賛	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団	2015/10/17	かなりは リハ工学・福祉機器フェスティバル2015
13	後援	バイオフィリア リハビリテーション学会	2015/10/24～25	第19回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
14	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2015/10/29～31	P. P. C. 2015第17回西日本国際福祉機器展
15	後援	日本身体障害者補助犬学会	2015/10/31～ 11/1	日本身体障害者補助犬学会第8回学術大会
16	協賛	バイオメカニズム学会	2015/11/28～29	第36回バイオメカニズム学術講演会
17	協賛	感覚代行研究会	2015/12/7～8	第41回（2015年）感覚代行シンポジウム
18	後援	公益社団法人日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会	2015/12/12	第2回日本支援工学理学療法学術集会
19	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2015/12/14～16	第16回SICEシステムインテグレーション部門講演会
20	後援	川村義肢株式会社・社会福祉法人 日本介助犬協会・大東市総合文化センター	2015/12/16～19	介助犬のひろばin大東2015
21	後援	国立障害者リハビリテーションセンター	2016/2/20	支援機器利活用拡大シンポジウム2016
22	後援	日本チェアスキー協会	2016/2/25～28	障害者スキー普及講習会 第37回 日本チェアスキー大会
23	協賛	特定非営利活動法人モバイル学会	2016/3/10～11	シンポジウム「モバイル'16」
24	協力	経済産業省製造産業局	2016/4/28～ 6/30	第7回ロボット大賞
25	後援	公益社団法人日本理学療法士協会	2016/5/27～29	第51回日本理学療法学術大会
26	協力	日本身体障害者補助犬学会	2016/5/27	航空関係者・空港関係者・交通事業者対象補助犬受け入れ&車椅子取扱いセミナー
27	協力	高知福祉機器展実行委員会・生き 生きサポートセンターうえるば高知・社会福祉法人高知県社会福祉協議会	2016/6/24～26	第15回高知福祉機器展 バリアフリーフェスティバル2016

（下線は新規）